

第 33 回 神戸市公立大学法人評価委員会 議事要旨

1. 日 時 2023 年 8 月 22 日（火曜）16:00～18:40
2. 場 所 神戸市役所 1 号館 14 階大会議室
3. 出席者
 - 委員 岡田豊基委員長、木戸良明委員、小泉美子委員
 - 事務局（企画調整局）辻局長、藤岡部長、竹原課長ほか
 - 神戸市公立大学法人 武田理事長、田中副理事長、林（泰）理事、山本理事、
林（範）理事、増田課長、川崎課長ほか
 - 神戸市外国語大学 都築次長、島課長、伊藤課長
 - 神戸市立工業高等専門学校 道平校長補佐、山出事務室長、田中課長ほか

4. 議題

議題 1 委員長及び委員長代理の選出について

委員長を岡田委員、委員長代理を木戸委員とすることについて決定がなされた。

議題 2 2022 年（令和 4 年）度業務実績に関する評価について

2022 年（令和 4 年）度業務実績について神戸市公立大学法人より説明が行われ、委員から下記のとおり質疑がなされた。

その後、評価委員会の評価案について事務局より説明を行い、評価の審議を行った。審議の結果、全体としては順調に進捗していると認められるとの決定がなされた。

【主な質疑】

- （委員）大学院専攻の再編について、どの程度を考えているか。
- （法人）定員充足の問題から専攻再編について一時検討したが、大学院運営部会において議論を行う中で、現在の専攻は維持し、できる範囲で改善を行うこととした。必要があれば専攻再編についても検討する。
- （委員）ダブルマスタープログラムの数値目標は達成できているか。
- （法人）数値目標としては 4 人からの増加とあるため未達。現状、制度利用者が少なく、どのように制度を効果的に運営していくかについて検討していく必要がある。
- （委員）科研費採択率の分母は、e-Rad を持っている人ということか。
- （法人）本学で研究資金を管理している名誉教授を含んでいる。専任教員については全員含んでいる。
- （委員）数値目標の中には、数値の目標ではなく、「増加」とあるものもある。「増加」であれば、+1 でも達成で A 評価となるのか。

- (法人) 数値目標としては+1でも指標としては達成ではあるが、自己評価をするうえでは総合的に評価している。教育研究については教育研究評議会、経営については経営協議会、最後に理事会で審議して自己評価を決定している。数値目標未達等でも代替的事項が実施できているかなども含めて評価している。
- (委員) 科研費は1年間にどれくらい応募されているか。
- (法人) 2022年度決算ベースで81件、総額2,900万円。2022年度の申請は10件で採択は4件。
- (委員) 毎年10件ぐらいの新規申請ということによろしいか。
- (法人) コロナ前の申請件数として、2018年は27件、2019年は29件、2020年までの3年については20件を上回る申請件数となっている。
- (委員) 科研費受領比率については45.5%という目標になっているが、もう少し高くても良いのではないか。神戸大学では、科研費を3年申請しない人は比率計算の分母から削っている。科研費は期間が3年程度、採択率が30%程度なので、そういったことをすれば受領者数が100人近くなるのではないか、受領者比率を上げられるのではないか。次期はより高い目標とできるのではないか。
- (法人) 若手は申請しているが、一定年齢を超えると申請しない傾向があるように感じている。今後、木戸委員が言われたような方策についても検討していきたい。
- (委員) 大学全体として、科研費以外の外部資金に対してどのようにアプライされているか。
- (法人) 各種助成団体に関し、研究所で得た情報については、逐次教員に周知している。申請については個々の研究者に委ねている。
- (委員) グローバル展開の補助金にアプライしているのか。情報を仕入れているのか。
- (法人) 情報収集は行っており、内容によりアプライするかを検討している。
- (委員) 10年ほど前にグローバル人材育成事業の審査員を務めたことがあり、過去の実績を見たが外大の名前がない。大学全体として情報を収集して、アプライする姿勢はあるのか。
- (法人) 中央省庁が実施している補助金について、英語教育学に関して申請したことがあるが、それ以降はアプライできていない。非常に大きな問題と感じている。
- (委員) グローバル関係の補助金に採択された大学の現地調査に行き、学生面談をしたことがある。そこでその学生が「キャンパス環境が変わっていく様子を目の当たりにし、やる気が出た」と言っていた。大学が動けば学生も変わる。是非お考えいただきたい。
- (法人) 私自身としては問題意識を持っている。法人として将来構想検討委員会を立ち上げて、法人、外大、高専の課題について議論を行っている。その課題の改善に向けて、外大としては、秋ごろに執行部案を学内に提示できるよう準備を進めているところである。

- (委員) 神戸市で若手研究者の研究活動経費助成(「大学発アーバンイノベーション神戸」)を実施しているが、アプライしているのか。
- (法人) 情報共有はしているが、手を挙げられていない。どのように研究者に伝え、手をあげていただけるようにしていくのが課題と考えている。
- (委員) 神戸市内の大学との交流は行っているか。
- (法人) コンソーシアムひょうご神戸に参加し、模擬国連の科目を提供している。コンソからの情報を教職員に情報共有を行っている。
- (委員) 兵庫県立大学に留学生が多く来ているが、日頃から交流はあるか。
- (法人) 大学院レベルで先方から依頼を受けたことはあったが、現時点では実現に至っていない。決して自分たちだけで殻に閉じこもるつもりはない。お互いの良いところを学び、悪いところは正すというように連携していきたい。
- (委員) 科目等履修生の人数はわかるか。
- (法人) 科目等履修生数について、2019年は20名、2020年～2022年は22名ずつ。以前はいろんな科目を受講することができていたが、現在のような科目等履修生となるとハードルが上がり、若干低調となっているのかもしれない。リカレント教育をどのようにデザインしていくかという問題と密接に絡んでいる。社会人の多様なニーズに応えられるような柔軟な制度とする必要があると考えている。この点についても将来構想検討委員会において、重要事項と設定し議論している。
- (委員) 大学図書館と市立図書館の設立の趣旨が違う。そういった違いについて広報、アピールしていくことはできないか。
- (法人) 公立大学として市民の図書館利用を促進することは必要と考えている。
- (委員) 民間企業とのPBLは実施しているか。
- (法人) この点は非常に遅れていると認識しており、将来的には高専との連携含め検討していきたい。PBLについてはどこの大学でも実施されており、外大でも実施できるように検討していきたい。
- (委員) ふるさと納税等の寄付金に関して、専門の担当者はいるか。
- (法人) 専門ではやっていない。
- (委員) 情報教育に関して、どのように外大としては取り組んでいくか。
- (法人) 2025年度入試より大学入学共通テストにおいて、情報Ⅰを必須科目とした。加えて、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)について、2025年度の申請に向けて準備をしている。
- (委員) 兵庫県立大学で授業料無償化が発表されたが、どのように対応する予定か。
- (法人) 2018～2022年度の入試では1%未満の併願状況。密接な競合関係とは言えない。兵庫県立大学では、兵庫県内の学生を対象とした制度となっているが、外大としては広く日本全国から学生を集めたいという思いもあり、一線を画して勝負をしたいと考えている。

- (委員) 生き残っていくためにどうするかということを楽しみにしている。
- (法人) 18歳人口の減少、技術の進歩、国の政策、競合校の動向などを睨みながら、いただいた意見を参考にしたい。
- (委員) 入試の志願者数と辞退者数について、以前調査していただいた際、志願者数が多い時には辞退者数が少なく、反対に志願者数が少ない時には辞退者数が大きいという分析結果が出た。これは明らかに相関関係にある。志願者数を増やす政策を行っていくことが第一志望の学生が入ってくれることに繋がるのではないかと理解した。「あれもやりました。これもやりました。」だけではなく、具体的な数字を出してほしい。
- (法人) こちらも課題と考えており、数値は収集し、グラフ化したりしているが、原因の分析などは難しく、分析力を高めていきたい。

《評価案に関する説明終了後における主な質疑》

- (法人) 自己財源の確保について、ふるさと納税による寄附金については2021年度までで既に達成済みであり、2021年度がAで2022年度がBとなった理由について、もう少し詳細にご説明いただきたい。
- (事務局) 2021年についてはお一人から高額な寄付があった特例的な年度であり、この特例的なものがなかった場合、通常のペースでは達成できないという判断でB評価とした。
- (法人) 昨年度はAとなったところとの違い、今回どこが悪かったのかを教えてください。
- (事務局) 事務局案であるため、後ほど委員の皆様で協議の上決定していただきたい。

議題3 第3期中期目標の期間の終了時に見込まれる第3期中期目標の期間における業務の実績に関する評価について

第3期中期目標の期間の終了時に見込まれる第3期中期目標の期間における業務の実績について神戸市公立大学法人より説明が行われ、委員から下記のとおり質疑がなされた。

その後、評価委員会の評価案について事務局より説明を行い、評価の審議を行った。審議の結果、全体として達成状況が概ね良好であると認められるとの決定がなされた。

【主な質疑】

- (委員) 新型コロナウイルスの影響を考えると、留学に関する数値目標の未達により、評価を下げるということは厳しいと感じる。目標を途中で変えるということはいかないのか。
- (法人) 6年間の計画であり、読めないところはあるが、変更する場合は正当化の要件が必要で、非常に煩雑な手続きを要する。コロナという理由はあるが、自己評価としては数値に対する評価としている。

(委員) 数値目標が達成できていないという事実は重いとは思いますが、代替案があれば評価の対象となりうるのではないかと思います、意見させていただきました。

コロナ禍において、大学図書館の市民利用制度登録者が減少しているが、対面ではない方法（WEBで資料検索、資料の郵送など）により利用者数の維持はできたのではないかと。

(法人) 学生については郵送対応を行ったが、市民の利用については、コロナ禍ではハードルが高かった。現状では5類になっているので、市民利用の促進の方向に舵を切っていく必要があると考えている。

(委員) 大学図書館は学びたい方にとって、様々な文献があり、非常に有用である。より活用してもらえ制度にしていきたい。

(委員) 一般市民はIDを出せば入れるのか。

(法人) 登録した方は入ることができる。

(委員) ボランティア学生977人は達成ができそうだが、難しいのか。

(法人) この数値は大学で把握するボランティア学生数となっている。学生自身で行っているものは一定数あると思われ、ここの数値を把握することが難しい。未達の可能性があると考えて評価した。

(委員) 神戸大学でも言語情報学を重視している。高専との連携を利用して、情報と言語について検討していただきたい。

(法人) チャットGPTへの対応を含めて検討していきたい。

《神戸高専の主な取り組みに関する報告における主な質疑》

(委員) 起業への支援について、関西経済連合会でプラットフォームを立ち上げており、相談すると意見・支援をいただけると思う。

(高専) 参考にさせていただく。

(委員) 情報教員について取り合いになると思うが、何人採用する予定か。

(高専) 5名募集している。

《連携事業の主な取り組みに関する報告における主な質疑》

特になし

《最後に》

(理事長) コロナの影響で2021年度から運営費交付金のベース部分が2割削減されている。普通、様々な評価等に従って運営交付金は上下するものであるが、文科省は悪い評価でも削減は5%程度としている。20%削減が続くと、次年度には2億の予算不足が生じる見込となっている。20%削減はひどすぎる。法人のアクティビティにも大きく影響する点であるため、評価委員の皆様にも注意を向けていただきたい。

『評価結果の通知』

(委員) 審議の結果、「2022年(令和4年)度業務実績に関する評価」及び「第3期中期目標の期間の終了時に見込まれる第3期中期目標の期間における業務の実績に関する評価」について、いずれも評価委員会評価案のとおりとさせていただくこととした。

特に、自己財源の確保の項目について、ふるさと納税による寄付金が2021、2022年度を比較したとき、下がっているということから、事務局の素案通り、今後の期待を込めてBとした。寄付金を獲得するための体制を整備すべきではないかという意見が出た。

議題4 財務諸表、利益処分についての報告

財務諸表、利益処分について、事務局及び神戸市公立大学法人から一括して説明を行い、委員会として了承された。

【主な質疑】

特になし